

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
第1回区政会議				
1	H30.7	【区政会議】 区政会議を意見聴取の場としているのであれば、2回の開催回数では少ないのではないかと。(中野佳弘委員)	平成30年度から、より活発な意見交換を可能とし、多くの委員のご意見をいただけるよう、班ごとの審議を基本とする分科会形式で運営します。また、より専門的な意見交換を行うことにより、効果的かつ効率的な区政会議の議論に資するため、地域福祉ビジョン検討部会及び路上喫煙対策部会を開催します。	①
2	H30.7	【区政会議】 区政会議のメンバーには地域活動をされている方が入っているが、全ての地域からは来ていないようだ。来年度からは全ての地域の人が揃うよう、地域に働きかけて選出してほしい。(林委員)	区政会議委員34名のうち、地域団体より推薦された方から選出した委員は22名で、各地域活動協議会からも地域の実情に応じて7名を推薦していただきました。平成31年10月の次回委員改選では、未推薦の地域活動協議会にも地域の実情に応じて可能な場合は推薦していただけるよう働きかけてまいります。	②
3	H30.7	【区政会議】 区政会議における安全・安心に関する議題については、警察や消防に参加していただいているかどうか。(萱野委員)	区と警察・消防とは日常から密接に連携しており、警察・消防に伝える必要がある区政会議でのご意見は情報共有しているため、現時点で区政会議への警察・消防の参加は必ずしも必要ではないかと思えます。今後、安全・安心に関してより専門的な意見交換が必要な喫緊の課題が出てきた場合は、関係者として出席を求めるところを検討します。	③
4	H30.7	【情報発信】 ・区民のスマートフォン利用者は多いと思うので、情報発信のツールとしてもっと活用してはどうか。行政にとっては経費削減に繋がりが、区民は情報を入手しやすくなるなどメリットが考えられる。(中野浩志委員) ・LINE@による広報を行っていることを、もっと周知すべき。(竹田委員)	・天王寺区公式SNSとして、区からのお知らせやイベント情報をタイムリーに発信する「LINE@」、様々な行政情報や地域での活動の情報などを写真等とともに発信する「Facebook」、気象警報や緊急情報を発信する「Twitter」、動画を掲載している「YouTube」があり、引き続き、効果的な情報発信に努めてまいります。 ・LINE@を含めた天王寺区公式SNSの周知チラシを、区民2000名を対象に郵送で行う区民モニターアンケート調査に同封するなど、お友達登録を増やす取組みを進めます。	①
5	H30.7	【情報発信】 区の広報板を目立つ場所に設置してほしい。(中谷委員)	区の広報板につきましては、民有地を含む設置場所(76か所)の土地所有者のご協力のもと、稼働させていただいており、広報板の場所を動かすことは困難ですが、引き続き、広報板の有効活用に努めてまいります。	④
6	H30.7	【情報発信(区内施設の活用)】 クレオ大阪中央は、図書館やホール等施設が充実している。もっと活用してもらえよう施設についての周知を強化してはどうか。また、区の事業でも利用すれば良いと思う。(中野佳弘委員)	クレオ大阪中央からのイベント情報については、区の広報紙において掲載するとともに、区役所1階の情報コーナーでもチラシ等を配架しております。区の事業での利用については、区役所に講堂等の利用できる施設があることから、費用対効果を検討しつつ、事業規模に応じて利用を検討してまいります。	①
7	H30.7	【職員力の向上】 区職員が民間企業へ派遣されることで、事業者が行う企業努力等が学べるのではないかと。(中野佳弘委員)	民間企業への職員派遣については、以前、市の事業として実施し一定の成果も出ていましたが、市への社会人採用が一定進んだことから、一旦見直しということで現在では実施されていません。職員人材開発センターに確認したところ今後の実施については未定とのことですが、再度実施されるということであれば、職員派遣について検討してまいります。	③
8	H30.7	【職員力の向上】 区役所の窓口で“たらい回し”が起こらないよう、担当課以外の業務の知識を習得してほしい。また、職員間での情報共有は大切だと思う。(中山委員)	他課の業務を知ることをメインに毎年職員塾を開催しており、今後も継続して実施していきたいと考えています。職員間での必要な情報共有については、メールや各課の朝会等の場を活用し取り組んでまいります。	①
9	H30.7	【「日本一の文教『都市』」をめざした取組】 「日本一の文教『都市』」を目指すなら、どのような取組みをすべきか区民に問い反映させるべきである。(平嶋委員)	当区としては、区内に教育関係機関が集積していることから、関係機関と連携し優れた教育・人材育成の機会を区民に提供できるよう「日本一の文教『都市』」をめざすことを経営課題に掲げ、取組を進めています。「日本一の文教『都市』」をめざした取組について、区政会議など会議の場のほか、つなげ隊や区民モニターなど様々な機会をとらえて区民のご意見を把握し、施策への反映に努めてまいります。	②
10	H30.7	【文教都市としての見える化】 天王寺区は、「文教都市」として高校が多く、学校や学生が地域と連携・協力して取り組んでいる事例が多くある。それらを、区役所が取り上げ、「見える化」していく必要がある。(平嶋委員)	これまで区内高校の特色ある取組を区広報紙で特集してきた例はありますが、今後とも区内小学校や生徒が区事業や地域と連携・協力して取り組んでいる事例を把握したうえで、区の広報ツールを活用して区民の方々にお知らせし、取組の「見える化」を図ってまいります。	①

11	H30.7	【人材育成】 ジュニアクラブはいい取組みでもっと多くの子どもに参加してほしいが、一方グローバル人材育成事業は多くの参加申込みがあるものの、その事業だけの参加になり、事業実施後は区役所や地域の関係も切れてしまう。区が行う人材育成の取組みは、ジュニアクラブ会員になったうえで、参加できるようにしてはどうか。(出水委員)	ジュニアクラブ事業は、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成という観点から地域の方々の協力を得て、年5回程度ボランティア活動や地域の理解を深める活動を行っています。一方、グローバル人材育成事業は将来意欲的に海外に挑戦し活躍する人材を育成することを目的として実施しています。ジュニアクラブ事業は、活動によっては受入先等の事情から参加できる人数に自ずと制約があることや、両事業は事業趣旨が異なること、また様々な区民のニーズに柔軟に応える必要もあることから、参加者の募集にあたっては事業ごとに募集を行ってまいりたく考えております。	④
12	H30.7	【人材育成】 単に事業に参加してもらっただけでなく、海外留学などその後の人材育成に大きな影響を与える事業を実施すべきではないか。(井川委員)	グローバル人材育成事業は将来意欲的に海外に挑戦し活躍する人材を育成することを目的として実施しています。直接留学を行う事業として実施することも考えられますが、少人数に多くの投資を行う事業にならざるを得ないことや、本市中学生を対象に市教委が関わる海外派遣の事業もあること、現状小学生を中心に多数の参加申込があることから、本事業についてはより多くの子どもが参加できる事業となるよう工夫しながら実施してまいります。	④
13	H30.7	【人材育成】 文教都市として学力の向上を目指していくのはいいが、最近の子どもたちは文化が弱い。例えばミュージカルの催しなどをするなど、文化面にも力を入れるべき。(平嶋委員)	学力向上のみならず文化面を含め多様な機会を提供していくことが人材育成として必要と考えます。各校でも文化体験の取組みは行っておりますが、当区としても学校と連携して小学校音楽交流会や中学校吹奏楽部・合唱部によるバリアフリーコンサートの活動を支援しています。今後とも学校のご意見もお聞きしながら多様な教育機会の提供に努めてまいります。	①
14	H30.7	【個別指導 天王寺塾】 個別指導 天王寺塾は中学生が対象だが、学習習慣を身につける観点からは中学生からでは遅く、対象を小学生にも拡大すべき。(井川委員)	学習習慣の定着には小さいころからの生活習慣が大切と考えます。現在塾代助成を活用した取組みは本市で中学生を対象としていることから、本事業は中学生を対象としておりますが、ご意見は市の塾代助成担当部局へもお伝えしてまいります。また、区としても放課後等に小学校で開催され多くの児童が参加する児童いきいき放課後事業の場で学習習慣が身につくような取組みを受託事業者に求めてまいります。	④
15	H30.7	【地域社会による人材育成】 子どもたちを高齢者の方が見守り育てていくことで、その子どもたちが愛情を感じて、また自分たちが大人になった時に地域の子どもの見守り育てていくことになる。天王寺区には多くの世代、いろんな生活環境を持った子どもたちがおり、互いに支えあう社会づくりが重要である。(頓名委員)	ご意見のとおり、世代を超えてお互いに支えあう社会づくりは重要と考えます。区としても、地域で子どもたちの健全育成に取り組む青少年指導員の活動をサポートするとともに、ジュニアクラブ活動において世代間交流のプログラムを実施するなど、互いに支えあう社会づくりに資する取組みの実施に努めてまいります。	①
16	H30.7	【人材育成(情報発信)】 子どもを対象としたいろいろな企画や事業に、本当に来てほしい人が参加できているのか。(必要としている情報が必要な人に伝わっているのか。)(井川委員)	子どもを対象とした事業を実施する際は、区内小中学校にチラシ配布を依頼するほか、広報紙や区掲示板等も活用し、周知を図っています。また、30年度は、ひとり親家庭等サポートブック交付の機会に、個別指導天王寺塾やこどもの居場所の案内も行ったところです。今後とも、必要な情報が必要な人に伝わるよう留意して事業の周知に取り組んでまいります。	①
17	H30.7	【子育て支援(情報発信)】 ・子育て情報が必要な人に伝わっていない。虐待などの相談窓口をはじめ各種相談事業などを実施しているといった区役所の情報をもっとPRすべきである。(辻委員) ・子育てサークル等をやっているが、本当に手を差し伸べたい人に来てもらえない。どういうふうにしたら来てもらえるか。いい取組を地域でしているのに、本当に必要としている人に参加してもらえない。もっと情報を発信していかないといけない。(一本松委員)	広報紙への情報掲載をはじめとし、子育て情報アプリによる情報配信、子育て情報博覧会の開催など、引き続き取り組むとともに子育て情報の出張相談を行うなどさらなる広報の充実に取り組んでいます。	①
18	H30.7	【保育の充実】 待機児童が0になったが、今後は保育内容の充実と保育士の充実(人数・質とも)に取り組んでいくことが大事である。(山崎委員)	保育内容及び保育士の充実については、こども青少年局への働きかけを継続的に行い、また、保育士募集の広報に協力するなど充実に向けて取り組んでまいります。	⑤
19	H30.7	【独居高齢者等見守り】 見守りサポーターに小さい子どもとその親がついて行けば、話がはずむのではないか。(三宅委員)	見守りサポーターは、地域住民を中心としたボランティアが独居高齢者等を家庭訪問し、医療・介護等の課題への早期発見・早期対応を行っています。世代を超えた多くの区民の皆さまが、こうした取組みに関心を持ち、ご理解いただけるよう、引き続き、周知・啓発を行ってまいります。	③
20	H30.7	【独居高齢者等見守り】 個人情報の問題はあるが、役所で持っている独居高齢者の情報を活用してもらいたい。(江畑委員)	独居高齢者等見守りサポーター制度において、75歳以上の独居高齢者等で見守りを希望され、情報提供の同意をされた方の個人情報については、見守りサポーターにお伝えし、日頃の見守り活動に活用しています。	①

21	H30.7	【要援護者見守り】 要支援者名簿への登載に同意して見守りを希望された方(平成29年度450名)とのつながりは貴重なので、その方達の意見を聴くと良い。(三宅委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う団体等(地域活動協議会、民生委員等)に提供し、日頃からの声かけや自宅訪問、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①
22	H30.7	【見守り】 見守りの報告を役所にしなくてもいいと聞いたことがあるが、報告は必要だと思う。(上戸委員)	独居高齢者等見守りサポーターについては、定期的な訪問などの見守り活動記録を見守り相談室(事業受託者)を通じて、区に報告してもらっています。また、要援護者名簿についても、見守り活動を通じて、気づいたことや気になることがあれば、報告してもらおうことになっています。	①
23	H30.7	【高齢者】 町会と連携しないと、高齢者の状況把握がより詳しくできないのではないか。(菊山委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う団体である連合振興町会等に提供し、日頃からの声かけや自宅訪問、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①
24	H30.7	【高齢者】 地域資源を戦略的に活かしていく必要がある。取組は良いが、このペースで急速な高齢化に追いついて行けるのか。(松下尚生委員)	急速な高齢化が進む中、生活支援体制整備事業において、高齢者の生活支援ニーズを把握し、ボランティア等の創出や生活支援の担い手となるさまざまな関係機関や団体などの地域資源と連携し、生活支援サービスの充実に向けた取組みを進めています。	①
25	H30.7	【高齢者】 ・高齢者施設がもっとあったら良い。(三浦委員) ・特別養護老人ホームが少ないので、区内の土地活用を考えていただきたい。(菊山委員)	特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設については、「市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、市内全域での整備目標を定め、整備を図っております。なかでも特別養護老人ホーム整備事業者の募集にあたっては、区ごとの施設の偏在が過大とならないよう天王寺区など施設の少ない区に整備することを優先した公募も行っています。	①
26	H30.7	【いきいき百歳体操】 ・いきいき百歳体操の拠点が3カ所では少ない。家の近くに小さな拠点でもあれば行きやすい。(菊山委員) ・大阪市スポーツ推進委員との連携がとれていないのではないか。(片岡委員)	・「いきいき百歳体操」は、介護予防に効果があり、住民主体の通いの場として、住民自らが、継続的に通いやすい自らの地域で拠点となる場を設定して実施していただく事業です。こうした住民の機運を醸成するため、様々な場を活用しながら周知を行うなど、必要な支援を行います。 ・地域住民が大阪市スポーツ推進委員との連携を図る意向であることを確認した際は、必要な支援を行います。	⑤
27	H30.7	【健康】 昼間がん検診に行けない人のために、土日祝や夜にがん検診を受けられるようにすべき。(菊山委員)	・がん検診は、天王寺区保健福祉センター分館(上汐公園横)で年間12回実施しています。それ以外にも、区内の取り扱い医療機関(80カ所)でも同じ検査を同額(胃がんを除く)で受診できます。 ・区で実施する12回のうち、土日祝日の日中に6回、平日の夜間に1回、平日の日中に5回、開催しています。 ・より多くの方に受診いただけるような対策を検討してまいります。	①
28	H30.7	【健康】 高齢者も大事だが、健康分野は若年層にも目を向けるべき。(松下尚生委員)	・健康に関する取り組みは、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方を対象に実施しています。 ・がん検診では、育児中の方が受診しやすいように、事前申請により、保育ボランティアを依頼するなど、受診しやすい環境づくりに取り組んでおり、引き続き多くの区民の方にご利用いただけるよう検討してまいります。	①
29	H30.7	【防災】 出前講座を実施する際に、地域と住民をつなぐ観点から、民生委員など地域で活動している人にも声をかけていただきたい。(田中委員)	地域等で出前講座を実施する際には、可能な範囲で民生委員の皆さんをはじめ地域で活動している皆さんのご紹介の機会を設けるよう、主催者と調整してまいります。	①
30	H30.7	【防災】 上汐駐車場(地下駐車場)や四天王寺を災害時の一時避難場所にするにはできないか。(小野委員、萱野委員)	一時避難場所としては、災害時避難所である学校等の校庭など46ヶ所を指定しているほか、広いスペースをお持ちのお寺を中心に現在10寺院と協定を締結しています。上汐駐車場や四天王寺など、一時避難場所の拡充に向けて検討を進めてまいります。	①
31	H30.7	【防災】 ・災害時に自身が何をすればよいのか、災害グッズにどういったものがあるのかわかるようにしてほしい。(原田委員) ・災害時の緊急避難路は、車は通れないが人は通れることはあまり知られていない。その役割と実際の経路をマップなどを用いてわかりやすく知らせるべき。 ・災害時避難所・一時避難場所・広域避難場所の役割や災害発生時の職員の参集体制についてわかりやすく知らせるべき。(松下正克委員)	避難所に関する情報をはじめ、区民の皆さんにぜひ知っていただき、自助・共助の備えに役立てていただきたい情報については、区広報紙やHPを活用して積極的な周知・啓発に取り組んでまいります。	①

32	H30.7	【防災】 地域の防災マップについて、配っているにもかかわらず知られていない。自分の避難場所が具体的にわかるよう、わかりやすく知らせてほしい。(田中委員、林委員、中谷委員)	・それぞれの地域の避難場所については、出前講座などの際に積極的に周知・啓発を図ります。また、平成27～29年度にかけて全地域で全戸配付した地域別防災計画概要版にて紹介していますので、ぜひご参照ください。 ・併せて、区の防災マップについて、広報紙8月号に掲載しているほか、区ホームページにも掲載していますので、こちらもご参照ください。	①
33	H30.7	【防災(マンション)】 ・マンション管理組合同士がつながり合える場を作ることで、ノウハウの共有ができると思う。(中野佳弘委員) ・地域の連合単位で、マンション管理組合が参加する会議体があれば、自助・共助に役立つのではないかと(竹田委員) ・マンションのエレベーターの発災時の緊急停止への対応について、区役所から管理組合に対して指導できないものか。(原田委員)	・マンション同士のつながりづくりについて、毎年マンション防災に関する学習会を開催しており、参加者相互で防災に関する情報交換を行うとともに、できる限り同じ地域のマンションが同じ班となるよう編成を工夫し、近隣同士のつながりづくりに寄与するように努めています。今後もマンション防災学習会を通してマンション同士の交流を図ってまいります。 ・マンションのエレベーターの発災時の緊急停止への対応については、基本的に区には管理会社に対する指導権限はなく、各管理組合と管理会社(およびエレベーター管理会社)で協議すべき事項と考えますが、区としても、マンションで開催する防災出前講座などの際には管理会社の方にもできる限り同席を求め、その際に検討を要請してまいります。	①
34	H30.7	【安全・安心】 安全・安心は高齢者から子どもまでいろんな年代の人々が校区全員で取り組むことであるから、全員参加できる仕組みを作っていたきたい。(小野委員)	防災訓練などの際には、できるだけ多様な世代の多くの方に参加していただけるよう、区広報紙や広報板などでの周知を積極的に行ってまいります。	①
35	H30.7	【空き家対策】 空き家の活用策として、区内の空き家をオフィスとして貸し出す等事業者を誘致してはどうか。(中野佳弘委員)	区窓口への相談事例では、多くは利活用に適さない危険かつ老朽化した家屋が多く、また、所有者・管理者等に利活用について提案しても反応がないのが実情です。現時点では事業者誘致を行う状況にはないと考えていますが、今後の状況に応じて事業者誘致を含めた利活用策についても検討してまいります。	③
36	H30.7	【シティ・プロモーション】 ・聖徳太子没後1400年の節目に向けて、四天王寺や天王寺七坂等周辺もクローズアップされる契機になる。天王寺区内に点在するまちの魅力を区内外に知ってもらう機会にしてほしい。(吉田委員) ・四天王寺は歴史ある史跡なので、区の魅力スポットとして発信してほしい。(竹田委員) ・四天王寺をつくった宮大工の技術・伝統を天王寺区から発信することで、大阪で初めての世界遺産認定を取れるよう、市・府・国にアピールしてほしい。(中野佳弘委員)	・30年度は、大阪・熊野街道歴史ウォークを実施するほか、小説『幻坂』の舞台・天王寺七坂のまち歩きや、歴史街道(難波大道、熊野街道)や天王寺ゆかりの文学に関するセミナーなども予定しています。聖徳太子没後1400年の契機に向けて、天王寺区の魅力がクローズアップされるよう地域住民・関係団体と協力しながら進めてまいります。 ・世界遺産登録については、行政からのアピールというより、地域の盛り上がり、皆様方の熱意が必要かと考えます。区役所としても地域の皆様の機運の盛り上がりがあるようであれば積極的に関与してまいります。	③
37	H30.7	【ガイドマップ】 ・中央区では、わがまちガイドナビのような区内の魅力をまとめたガイドマップを数種類作成している。天王寺区でも、こういったガイドマップを発行できないか。(中野佳弘委員) ・来年度、中央区のようなガイドマップの作成を検討してほしい。(竹田委員) ・外国人観光客の増加に伴い、てんしばにも多くの外国人の方が訪れる。外国人向けのガイドマップを作成し、てんしばで配布すれば、もっと外国人観光客がもっと広いエリアを見て回るなど、区内の活性化につながると思う。(吉田委員)	当区ではガイドマップを「上町台地周遊マップ」一つにまとめており、その充実に努めていきます。外国語版「上町台地周遊マップ」の作成につきましては、歴史等に詳しい専門的な翻訳手法が必要であり、何語のマップがどのくらいの部数必要かの検討も必要になると考えます。引き続き、極力少ない経費で大きな効果を生み出す努力をしつつ、民間の力もお借りしながら、効果的な方策の検討を進めてまいります。	③
38	H30.7	【吹奏楽フェスティバル】 吹奏楽フェスティバルは規模が大きいので、吹奏楽関係者のみならず、もっと沢山の方に来場してもらえるように広く情報発信をすれば良いと思う。(吉田委員)	今年度以降、費用対効果を考えながら、効果的な情報発信を実施してまいります。	①

※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
⑤その他